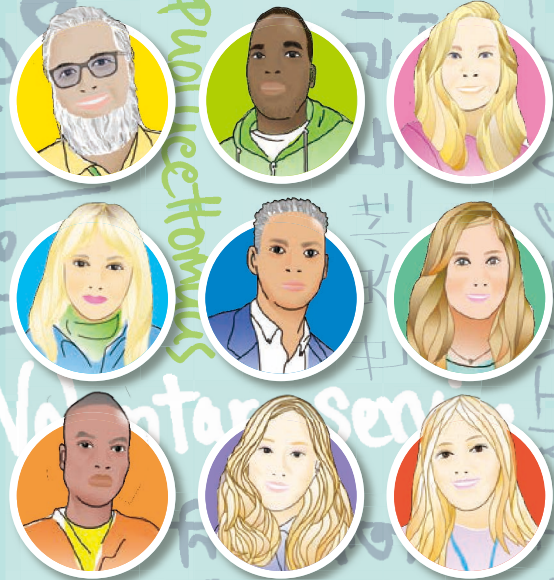


Kit ma ykseys 2024

国内外の救援活動 2024

Japanese Red Cross Osaka Hospital
International Medical Relief Department



Universality

ENDEPANDANS

Equilibrium

Humanity
tasap uolisuus

Guarantee

世界中の仲間が赤十字7原則を10か国語で書いています (日本語含む)

パレスチナ自治区・ガザ地区

ガザ地区は隣国との境界を高い壁で隔てられ、水、電気などの生活インフラはもとより、教育の機会が極端に制限されています。2019年からガザ市にあるアルクッズ病院の支援を開始し、新型コロナウイルスや情勢悪化に伴う3年間のリモート支援を経て、2023年7月より実派遣を再開。大阪赤十字病院から看護師1名と助産師1名を派遣し、それまでの基本的看護技術に加え、新生児ケアの向上にも力を入れ、研修や実務訓練を進めていました。しかし、2023年10月7日の軍事衝突で状況は一変。建物や道路は損壊し、子供たちで賑わっていた町は瓦礫の山と化しました。アルクッズ病院は攻撃勧告を受けながらも多くの負傷者の対応を続けましたが、水・燃料が底を尽き、11月中旬に患者、スタッフ、避難民ともに南部に移動しました。



◀新生児集中治療室の看護師に実技を行う助産師



◀看護ケアの研修を行う看護師



▲多数の避難民が病院に避難



▲爆撃で負傷した救急隊員の処置にあたる現地看護師



▶事業チームメンバー

川瀬看護師がみたガザ

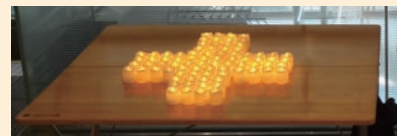


軍事衝突が勃発した際、私はガザ市の宿舎に滞在していましたが、攻撃の激化により、10月中旬に南部に移動しました。アルクッズ病院スタッフと連絡を取り状況把握に努めるとともに、南部に退避してきた避難民の応急処置や妊産婦・新生児の健康管理を行いました。被害者の多くは、女性や子どもを含む一般市民です。医療施設や救急隊員など、国際人道法で守られるべきたくさんの方々の命や機能が失われ続けています。事態が収束したあとも、長期的な支援が必要です。

大阪赤十字病院では人道危機の収束を願い、We are not a target (医療はターゲットではない) キャンペーンを行いました。今後も現地の方々との力になれるよう、私たちにできる支援を続けていきます。



▲動画はこちらから



▲終息への願いを込めて、キャンドルを院内に灯しました



ウクライナ

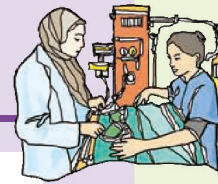
日本赤十字社はウクライナのイヴァノ=フランキウスク州において5つの巡回診療チームを支援しています。この巡回診療チームをサポートし、より良い医療を避難民の方々に届けるため、2023年3月から6月にかけて国際医療救援部から薬剤師1名を派遣しました。派遣終了間際には東部で大規模なダムの崩壊が発生し、その救援チームの派遣調整にもあたりました。帰国後も、オンラインでリモート支援を継続しています。



▲現地スタッフとの話し合い



▲巡回診療に訪れる避難民の方々



レバノン



レバノンのパレスチナ難民キャンプにある5つの病院を対象に、医療支援を行っています。2023年は国際医療救援部から計3人を現地に派遣し、北部のトリポリにあるサファッド病院で、エコー診断技術やフィジカルアセスメント、多数傷病者受入体制の構築など、医療の質向上に向けた支援に取り組みました。サファッド病院での活動を無事終え、次の病院での活動を開始した矢先、ガザでの武力衝突が発生。現在は情勢悪化のため現地活動を一時中断しています。一刻も早く鎮静化し、必要とされる支援が届けられることを心から願います。



▲事業チームの現地スタッフと



▲多数傷病者受入訓練の様子

シエラレオネ



▲支援先の小児専門病院



▲病院スタッフへのアセスメント

日本赤十字社とJICAとの共同事業として、シエラレオネのこども病院支援を行っています。首都フリータウンにある子供専門の病院を対象に、建物の建て替えというハード面の支援とともに、病院経営、医療機器の管理メンテナンス、看護サービスの質向上といったソフト面の支援を並行して行っており、日本赤十字社はこのソフト面の支援を協働で進めています。2023年は国際医療救援部から短期専門家として看護師1名を2回にわたり派遣し、安全で質のよい看護を提供できるよう支援しています。

親子の防災体験セミナー「災育」

2023年8月6日(日)に、親子で学ぶ防災体験セミナー「災育」を3年ぶりに対面開催しました。「災育(さいいく)」とは防災の教育という意味で当院が作った造語で、地域の防災力の向上を目的として小学校4~6年生とその保護者を対象に、毎年8月第1日曜日に開催しています。当日は病院を開放し、消防、警察、自衛隊、行政などの防災機関や、趣旨に賛同いただいた企業によるブースに加え、病院ならではの応急手当や傷の特殊メイク、薬局体験、野外手術室見学など多岐にわたる体験ブースを展開し、多くの参加者で賑わいました。

2024年の災育も8月第1日曜日に開催を予定しています。防災について親子で学んでみませんか？



▲給水車による応急給水



▲消火体験



▲モバイルファーマシーでの調剤体験



▲身近なモノを使った応急手当



▲親子で無線ゲーム



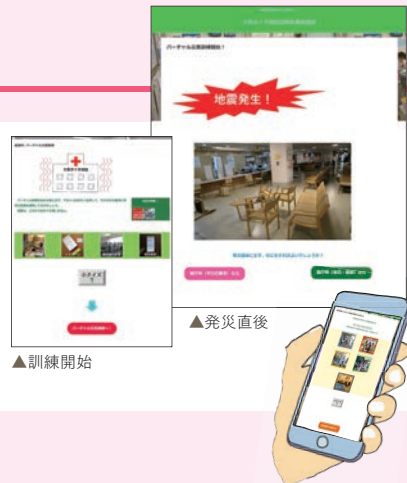
▲正しい避難を学ぶすぐらく



▲講演「もし大きな地震が起こったら」

バーチャル災害訓練

2023年は、10月1日から31日までの1か月間、「バーチャル災害訓練」を行いました。参加者は専用ウェブサイトを通じて、発災から順に時系列に沿って、当院が突発災害に遭った場合の対応を学びました。ウェブサイトは工夫を凝らし、動画や小クイズをちりばめるなど参加者が飽きずに最後まで取り組めるようになっています。



▲訓練開始

▲発災直後

Green dERU ~環境に配慮した オフグリッドの野外診療所~



国内で発生する突発災害に対して医療チームが即応できるようにするため、dERU (Domestic Emergency Response Unit) というツールを備えています。このdERUを再生可能エネルギーで運用する研究開発を進めており、太陽光パネルと蓄電池を組み合わせた、炭酸ガス排出量ゼロの完全自己完結型な診療所*が完成しました。

▶3枚で平均3900W/日の発電量



*1日の消費電力:約2,500W



国内外の人道支援活動を SNSでリアルタイムに情報発信しています

▼QRコードからアクセス！

Facebook



Instagram



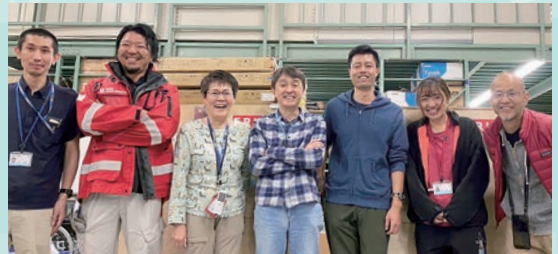
X



YouTube



24時間365日、いつでも対応
できる体制を整備しています



見学や各施設での講演も随時受付中！

▼お問い合わせはこちらまで

✉ imr@osaka-med.jrc.or.jp

☎ 06-6774-5030 (直通)



大阪赤十字病院 国際医療救援部

〒543-8555 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

TEL:06-6774-5111 (代表) FAX:06-6774-5131 (代表)

<https://www.osaka-med.jrc.or.jp/aboutus/international/index.html>

